

プレスリリース

■件名 東村山市下宅部（しもやけべ）遺跡 縄文時代最古級の木の葉で蓋をした漆液容器を新発見

■リリース日 平成25年5月30日（木）

■概要

- 全国で唯一「縄文時代の漆掻き傷」が発見されていることでも知られている、東村山市下宅部（しもやけべ）遺跡から、使用途中の漆が乾いて固まらないように、木の葉（広葉樹）で蓋をした容器が見つかった。この発見は、日本最古の事例と考えられます。詳細は別紙をごらんください。
- この新発見の資料を含め、東京都の指定文化財となっている縄文時代の漆工関連出土品を掲載した『下宅部遺跡Ⅳ 漆工関連資料調査報告書』（オールカラー）がこのたび刊行されました。詳細は別紙をごらんください。
- この新発見の資料は、市内「八国山たいけんの里」で、他の下宅部遺跡出土品とともに特別公開されています。6月8日（土）～23日（日）までは北山公園で「東村山菖蒲まつり」が開催されるため全日程開館しており、土・日曜はガイド・ボランティアによる展示説明を行っています。

■担当所管 東村山市教育部 ふるさと歴史館文化財係